



みなさんの農場には跛行を示す牛（肢を痛めた牛）はいないでしょうか？ 今回は繁殖と跛行に関する研究を紹介します。

## 乳牛の跛行と卵胞嚢腫および受胎性の関係について

### 材料・方法

搾乳頭数3000頭の牛群から分娩後30日以内に跛行を示した牛(跛行牛)65頭と非跛行牛130頭を選び出し、以下について調査・比較した。

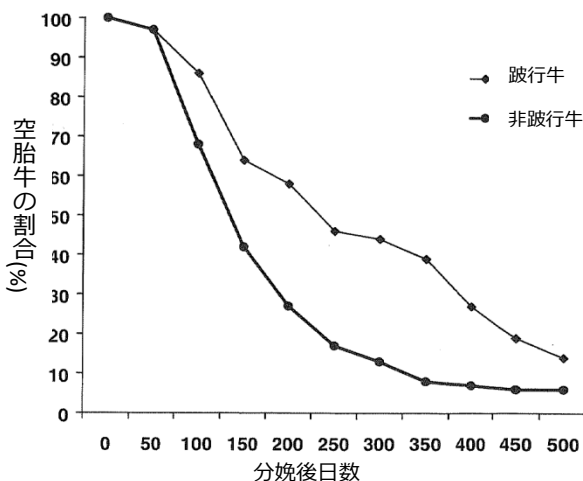
- ①卵胞嚢腫の発症割合
- ②初回授精における受胎率
- ③妊娠率について（分娩後50～500日での空胎牛の割合について）

### 結果

①卵胞嚢腫の発症割合と②初回授精における受胎率について、跛行牛と非跛行牛の間で有意な差がみられた。

	跛行牛	非跛行牛
①卵胞嚢腫の発症割合	25.0%	11.1%
②初回授精における受胎率	17.5%	42.6%

③妊娠率について、横軸を分娩後日数、縦軸を空胎牛の割合とし、分娩後50～500日での空胎牛の割合についてのグラフを作成し、跛行牛と非跛行牛で比較した。



跛行牛と非跛行牛の間で有意な差がみられた。跛行牛のうち空胎牛の割合が各日数で高くなっており、非跛行牛の方が妊娠率が高いことがわかる。

以上より、**跛行牛は**非跛行牛に比べて

- ①卵胞嚢腫の発症割合が高い
- ②初回授精における受胎率が低い
- ③妊娠率が低い

ことがわかる。

「跛行が繁殖に影響する」という因果関係を証明した研究ではありませんが、跛行が繁殖に影響していることが示唆されます。より高い繁殖成績を残すためには肢蹄の健康が必要だと思います。跛行の予防・早期治療を心がけましょう。

出典：Melendez P, et al. The association between lameness, ovarian cysts and fertility in lactating dairy cows. Theriogenology 59(2003)